

<p>教育目標</p> <p style="text-align: center;">笑顔かがやく南浜の子 ～向かい合う、認め合う、つながり合う子どもの育成～</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>架け橋プログラムの実践をテーマに、小学校と共に教育に向かいたいと考え、同じ教育目標のもと保育を進めた。その意義や願いを教職員、保護者、地域、子どもたちに重ねて伝え続けたことで、教育目標や架け橋プログラムへの理解につながった。育てたい資質・能力である『主体性』と『つながり』については、保育の見直しを図り取り組んだことで、子どもの姿に変容が見られ、育ちを感じることができた。今年度を土台に、次年度はより育ちや学びがつながるように取り組みたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小学校や地域の就学前施設が連携を深めた取組は、子どもの育ちをつなげるために大切な取組であるとする。就学前施設の会『ひまわりキッズ』の交流を参観したが、同じ小学校に行く子どもたちが入学前に出会い、一緒に遊ぶ経験は、入学への期待や安心感につながると考える。次年度も継続して取り組んでほしい。今年度同様、参観の機会があれば参加するなどの支援をしていきたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月29日	学校運営協議会（書面と聞き取り）
最終評価	令和8年3月10日	学校運営協議会（書面と聞き取り）

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが夢中になって遊ぶための援助や環境構成を考える中に、「夢中になる（主体性）」「つながり合う」子どもの姿を見取る視点をもつ。視点に添ったエピソード研修や保育を行う。 ・子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるように、毎月の保健指導や便りの中で、家庭でも、子どもが必要感をもって健康を守るための生活習慣を身につけられる工夫や発信をする。保護者と共に『自立と自律』を育む援助を積極的に行う。 ・友達との関わりの中で、共感・葛藤・つまずきなどの体験を通して、折り合う心を育み、協力し合い互いに必要な存在であることの大切さを実感していけるように異年齢や小学校との交流活動を保育計画に位置付・子どもの心が動いたり響いたりする「ほんまもん」の体験を大事にし、感じたり思ったりしたことを自分なりに表したくなる環境構成や教師の援助について考える。 ・自ら身近な自然環境に親しみ、自分の気づきや発見を友達や他学年へ広げられるよう、ICT 機器等も活用しながら援助する。科学センター等の施設も積極的に活用する。
--

- ・南浜地域の自然や伝統文化に触れ、親しみをもつ中で育まれる資質・能力について子どもの姿を通して確かめ保育に生かしていく。
- ・子どもが自分の体験に結び付けながらイメージを膨らませられるよう、遊びや生活に関連した絵本や物語を取り入れる。「親子で絵本！」についても活用を見直し、家庭とも連携して取組を進める
- ・友達と関わり、つながり合いを感じられる環境構成を工夫し、自分の思いを伝えたり、相手の思いを感じたりする機会をもつ。また自分事として捉えたり、気持ちを自己調整したりできるように関わる

（取組結果を検証する）各種指標

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る

○アンケート項目

『園生活の中で、様々な成長がみられたか』

『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』

『絵本やお話に興味をもっているか』

『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』

『「好奇心をもって遊んでいる」と感じるときはあるか』

『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』

『友達や先生と一緒に過ごしたりかかわったりする楽しさを味わう姿が見られるか』

『はまっこきょうだい』の友達に関心をもったり親しみを感じたりする姿が見られるか』

中間評価

各種指標結果

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る

・毎月の園内研修（保護者配布『月便りの子どもの姿』）、外部講師を招いての研究保育やエピソード研修をもとに、発達段階に応じた『夢中になる（主体性）』『つながり合う』姿、その育ちにつながる教師の援助・環境構成について研修した。教師の願いの下、子どもの興味関心に応じた保育を創る中で、安心感をもとに、自分で選んで自分で決める主体的な関わりによる遊びが展開され、自然の中での不思議さや気づき発見など心を動かす姿、教師に認められ自己肯定感をもち遊ぶ中で、友達とつながる姿、また仲間とともに、周りを巻き込みながら遊びを進めようとする姿など、『主体性』『つながり』が育まれる姿が確かめられた。

・子どもの帳面に毎月末に、その月の姿や育ちを記し、保護者と共有している。この取組自体は長年続けているが、そのコメントに保護者の返信を記せる取組を新たに加えたところ、保護者からも、子どもの変容や育ちを感じているというコメントが寄せられている。

○アンケート項目

『絵本やお話に興味をもっているか』 (保護者92%、教職員100%)

『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』 (保護者、教職員共に100%)

『「好奇心をもって遊んでいる」と感じるときはあるか』 (保護者、教職員共に100%)

『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 (保護者98%、教職員100%)

『友達や先生と一緒に過ごしたりかかわったりする楽しさを味わう姿が見られるか』 (保護者98%、教職員100%)

『はまっこきょうだい』の友達に関心をもったり親しみを感じたりする姿が見られるか』 (保護者96%、教職員100%)

自 **分析（成果と課題）**

己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に高評価であり、幼稚園教育への理解、個々の育ちを感じられている。 ・絵本の取組は、園内での読み聞かせ、個人の月間絵本購入、親子での絵本貸出、PTAサークル活動による読み聞かせなどを継続しているので、園での様子や取り組みの発信の仕方を検討する必要を感じている。 ・異年齢の取組についても、発信の仕方を検討したい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と保護者が思いを共有し、子どもと共に保育を創る中で、『主体性』『つながり』を育むことができるよう、研修や発信を継続する。 ・より保護者理解が得られるように、絵本・異年齢の取組については発信の仕方を工夫する。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る ○毎月末の帳面による園・保護者のコメント ○絵本・異年齢のかかわりの評価項目を見直した後期アンケート項目 ○アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』 『絵本やお話に興味をもっているか』 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』 『「好奇心をもって遊んでいる」と感じる時はあるか』 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 『友達や先生と一緒に過ごしたりかかわったりする楽しさを味わう姿が見られるか』 『はまっこきょうだい』の友達に関心をもったり親しみを感じたりする姿が見られるか』
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果から、保護者が幼稚園教育を理解されていることが伺えた。引き続き、子どもが直接体験を通して豊かに育つことができるように、できることは協力したい。 ・絵本に関しては、様々な情報ツールがあふれている現代だからこそ、お話しや絵本からイメージを広げる機会を大事にしてほしいと感じる。興味関心をもてる取組を今後も進めてほしい。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る。 <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修や外部講師を招いての研究保育やエピソード研修を重ね、それぞれの発達段階に応じた『夢中になる(主体性)』『つながり合う』姿を見取ることができ、個々の育ちを確かめることができた。個々の育ちとともに、教師の援助や環境構成についても研修を重ねることで、発達をとらえ、その子に応じた関わりを考える機会となり、保育の質向上につながった。 ○毎月末の帳面による園・保護者のコメント <ul style="list-style-type: none"> ・前期に続き、月末の帳面のコメントについて、子どもの姿の変容や育ちを感じている保護者のコメントが寄せられている。育ちの共有を、話すだけではなく、文章にすることで、日々の保育や子どもの変容がより伝わり、幼稚園教育の理解や安心感につながったと思われる。 ○絵本・異年齢のかかわりの評価項目を見直した後期アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標で『つながり』を大事にしていることもあり、異年齢の取組については年間を通じて大事に取り組んできた。家庭での会話にも異年齢の子どもの名前が出てくるなど、育ちを実感されて
--

いる意見も多い。絵本への関心も同様に取組は充実している。両項目とも個別に子どもの姿や変容を伝え、その子なりの育ちを感じることができるよう、引き続き、家庭との連携を図っていきたいと考える。

○アンケート項目

- 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』 (保護者、教職員共に100%)
- 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』 (保護者94%、教職員100%)
- 『絵本やお話に興味をもっているか』 (保護者90%、教職員100%)
- 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』 (保護者、教職員共に100%)
- 『「好奇心をもって遊んでいる」と感じる時はあるか』 (保護者、教職員共に100%)
- 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 (保護者98%、教職員100%)
- 『友達や先生と一緒に過ごしたりかかわったりする楽しさを味わう姿が見られるか』 (保護者、教職員共に100%)
- 『はまっこきょうだい』の友達に関心をもったり親しみを感じたりする姿が見られるか』 (保護者94%、教職員100%)

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
 *教育目標を基盤に、主体性・協働・表現・身体を使った遊び・好奇心に関する指標は評価が高い一方で、実感を伴う捉えとなるよう、子どもの育ちの“見える化”については今後改善していく必要がある。
 <成果>
 ・園内研修のエピソード検討・研究保育の積み重ねにより、『夢中になる(主体性)』と『つながり合う』姿を見取る力が向上した。個々の発達に応じた援助・環境構成の具体化が進み、保育の質向上が確かめられた。
 ・家庭との連携が深まった。月末帳面のコメントを通じて、保護者が子どもの変容を実感し、幼稚園理解と安心感につながっている。
 ・異年齢の取組(はまっこきょうだい)と絵本の取組が通年で充実できた。家庭の会話に異年齢の名前が挙がるなど、「つながり」の具体的な広がりが確かめられた。
 <課題>
 ・教職員の評価が概ね100%に達する一方、保護者評価では「絵本への関心(90%)」・「自立的な身支度(94%)」・「はまっこきょうだい」への親しみ(94%)」に若干、差異が見られる。
 ・エピソードの可視化・家庭への伝わり方にばらつきが見られる。個別の育ちを、家庭にも一層見える形で届ける工夫が必要だと思われる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後も保育力向上を目指し、一人一人の育ちを確かなものとしていく取組を進めていく。
- ・子どもの姿から育ちを実感できる可視化を具体的に進めていく。
- ・教職員と保護者との評価に差異が見られた項目については、取組は継続しつつ、発信の仕方や伝え方、または評価項目の見直しを図っていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・後期も評価結果から、保護者が幼稚園教育を理解されていることが伺えた。今後も子どもの体験活動を支援していきたい。
- ・絵本に関しては、家庭と連携を図り、その子にとって楽しめる絵本やお話に触れることができるよう取り組んでほしい。
- ・PTAとも連携を図り、より安心安全な園環境・取組を進めてほしい。

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組

- ・ 小学校と同じ教育目標に向かい、これまでの連携の在り方を見直し、子どもの育ちを確かめる。組織的に計画性をもった連携を進める。
- ・ 幼保小の参観や行事や研修会を計画し、互いに学び合う機会をもち、情報共有を行う。
- ・ 公開保育における具体的な子どもの姿やエピソードをもとに発信し、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を小学校等と共有し、架け橋期の教育の質の向上につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数（リモートも含める）
- アンケート項目
 - 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』
 - 『好奇心をもって遊んでいるか』
 - 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』

中間評価

各種指標結果

・ 毎月の園内研修（保護者配布『月便りの子どもの姿』）、外部講師を招いての研究保育やエピソード研修をもとに、3歳児は安心感を持ち自己発揮する姿、4歳児は気の合う友達とのかかわりの中で思いを出し合う姿、5歳児は興味あるものに向かう仲間と遊びを進める姿など、それぞれの発達に応じた『学びに向かう姿』が確かめられた。

・ 6月に『架け橋ウィーク』と称し、架け橋ブロックの施設対象に公開保育を行った。参観者には遊びの中での『主体性』『つながり』を視点とした『見取りシート』に記入をしてもらい、その結果を各施設に共有し、互いの学びにつながる取組を行った。

○ アンケート項目

- 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』
(保護者98%、教職員100%)
- 『好奇心をもって遊んでいるか』
(保護者、教職員共に100%)
- 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』
(保護者、教職員共に100%)

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 架け橋ブロックで、互いの教育を知り、つなげるための取組は前進している。保護者・地域への発信もあり、保護者の理解も進んでいる。
- ・ 子どもの姿から、つなげたい姿や力が確かめられつつある。架け橋期の教育の質向上に向けては、組織としての連携、持続できる取組を進めることが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 今年度新たに取組んだ架け橋ブロックでの取組を継続していくために、各施設の次年度以降の年間計画に位置づけられるようにしていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 公開保育・ひまわりキッズ（就学前施設の会）の取組での子どもの育ち『見取りシート』
- 絵本・異年齢のかかわりの評価項目を見直した後期アンケート項目
- アンケート項目

	『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋ブロックでの取組は、地域の子どもたちの育ちにつながる取組である。今後の取組に期待している。 ・ 就学前施設の年長児が集う、後期の取組を参観するなど、できる協力をしていきたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研修でのエピソード、保護者への月便りの子どもの姿を通して、それぞれの発達に応じた『主体性』『つながり』の育ちが確かめられた。アンケートの自由記述欄にも、我が子の育ちについての記述が多く、高評価であることが確かめられた。 <p>○公開保育・ひまわりキッズ（就学前施設の会）の取組での子どもの育ち『見取りシート』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋の取組（地域の就学前施設・小学校との交流活動）で、『主体性』『つながり』を視点とした『見取りシート』からは、子どもたちが遊びに主体的に関わる姿が多く見られ、また初めて出会う友達からも刺激を受けたり、関わろうとしたりするなど『つながり』と捉えられる姿が確かめられた。 <p>○絵本・異年齢のかかわりの評価項目を見直した後期アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢や絵本については年間を通じて大事に取り組んできた。家庭でも育ちを感じているとの記述がある一方で高評価である教職員と保護者との評価に差異が見られる項目となった。 <p>○アンケート項目</p> <p>『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 (保護者98%、教職員100%)</p> <p>『好奇心をもって遊んでいるか』 (保護者、教職員共に100%)</p> <p>『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』 (保護者、教職員共に100%)</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>* 「学びに向かう力（主体性・つながり）の育ち」と「架け橋プログラム」の実現についてはエピソード記録・見取りシート・アンケートのいずれからも育ちが確かめられた。特に、ひまわりキッズ・小学校との交流場面で、初対面の相手への関わりや自発的な行動は『主体性』『つながり』の視点での育ちにつながる姿が見られた。</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体性・つながりの育ちが多面的に確認できた。 ・ 公開保育やひまわりキッズでの『見取りシート』を用いた意見交換、共有が進んだ。架け橋の取組の土台ができてきている。 ・ アンケートでは高評価が多く、連携の成果が保護者とも共有できている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本・異年齢の項目で保護者と教職員に評価に差異が見られた。園では成長を明確に実感している一方、家庭での実感にはばらつきがあり、個別連携の中でその子なりの成長が見られることを発信していく必要を感じている。 ・ 就学前施設や小学校との交流活動を“継続性のある学び”となる取組へと発展させていく。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者と教職員の評価の差異を埋めるための伝え方の改善を図る。月便りに「活動の意味」を載せたり、個別連携で子どもの育ちを積極的に共有したりするなど具体策を検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋プログラムを「継続性のある学び」へつなげていく。今年度の反省を生かし、活動の前後研修を一連の流れとし計画する。『見取りシート』を継続記録に活用するなど、持続可能な取組を探っていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校や就学前施設との連携については、地域の子どもたちの育ちにつながる取組として、大変重要であるとする。今年度立ち上げられた取組については、次年度も継続して実施してほしい。参観などの機会には、できる限り参加したいと考えている。

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育終了後の子どもたちにとって、安心・安全に過ごすために、休憩時間を設定するなど、生活や活動内容の見直しを図る。 ・ 預かり保育でどのように過ごすか共通の思いをもって進められるように話し合う機会を設ける。 ・ 異年齢の子どもたちが関わって遊ぶことができる空間や環境を設える。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。 ○ 『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ○ アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> 『絵本やお話に興味をもっているか』 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育での子どもの姿を出し合い、教師の援助や環境構成の見直し、または子どもの発達に関する研修から、預かり保育の遊びの場の改善、預かり保育の質向上につながっている。 ○ アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> 『絵本やお話に興味をもっているか』 (保護者 92%、教職員 100%) 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』 (保護者、教職員共に 100%) 	
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育担当教員も共に研修できるよう、研修会への参加を呼び掛けたり、園内研修の時間を工夫して参加できるようにしたりするなどして取り組むことができ、子どもの発達や教師の援助・環境構成の在り方について学び、保育に活かすことができた。 ・ 子ども健康・安全を確保するため、『ゆっくりタイム』と称した休憩時間を位置付けた。子どもなりに休息の意味や必要性を感じ、その時間を過ごそうとするようになっていく。 ・ 預かり保育担当教員の研修参加に向けた人員配置が課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『ゆっくりタイム』の継続 ・ 預かり保育担当教員の定期的な研修の機会の保障
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p>

	<p>○預かり保育担当教員が参加できる研修の回数</p> <p>○アンケート項目</p> <p>『絵本やお話しに興味をもっているか』</p> <p>『預かり保育は子育て支援として役立っているか』</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・保護者・教職員ともに評価が高く、預かり保育が子育て支援として役に立っていることは、地域にとっても大変喜ばしいことである。今後も就労している家庭へ、『預かり保育の実施』について周知できるよう、ポスター掲示や回覧板などの活用をしてほしい。できることは協力したいと思っている。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○預かり保育担当教員が参加できる研修の回数</p> <p>・今年度、研修として実施できたのは1回だが、その後も書籍を皆で回したり、個別に意見交流をしたりすることができた。</p> <p>○アンケート項目</p> <p>『絵本やお話しに興味をもっているか』 (保護者90%、教職員共に100%)</p> <p>『預かり保育は子育て支援として役立っているか』 (保護者、教職員共に100%)</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>* 預かり保育が家庭のニーズに応え、子育て支援として十分に機能していると評価できた。</p> <p><成果></p> <p>・研修参加は限定的ではあったが、学びの共有が広がった。限られた時間の中でも、学びを共有しようとする姿が見られ、保育の質の維持・改善につながった。</p> <p>・絵本への興味については、継続して保護者サークルのお話し会を実施している。その中で、子どもたちが共に口ずさむなど、絵本やお話を楽しんだり親しみをもったりする姿が見られている。</p> <p><課題></p> <p>・絵本については他の項目と同様である。</p> <p>・預かり保育は特に「安全」「安心」「遊びの保証」「異年齢対応」が求められる。継続的な学びの機会の確保が課題である。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・安全・安心の確保や遊びの保証、異年齢への配慮など、預かり保育特有の専門性を高めるための継続的な学びの機会を確保していきたい。</p> <p>・絵本活動については保護者サークルのお話し会の継続を協力願い、職員間での教材共有や読み聞かせの環境整備を進めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・保護者の預かり保育のニーズが高く、幼稚園の取組が子育て支援として役に立っていることが伺える。『預かり保育の実施』について周知できるよう、ポスター掲示や回覧板などの活用をしてほしい。できることは協力したいと思っている。</p>

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <p>・満3歳児・2歳児親子クラス、預かり保育など、子育て支援の充実を図る。</p>

- ・乳児期や入園前の保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、担当教員だけではなく先輩ママとの座談会の場を設ける。
- ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページやアプリなどで保護者や地域の小規模事業所・区役所・児童館などに発信する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの理解に加え、保護者の思いも十分に受け止め、具体的支援を共に考えていく。その際に『内面』の成長にも気付けるよう、ICTも活用する。
- ・保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』の場を設ける。
- ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など、子育て支援の充実を図り、実践する。
- ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。

中間評価

各種指標結果

- ・ほっこり子育て広場では、ICTを活用し、子どもたちの写真で日々の様子を伝えたことは保護者にとってわかりやすく子ども理解につながった。
- ・0～3歳児つぼみ組については、新規登録される方、リピーターも増え、地域の子育て支援センターとしての役割を果たしている。
- ・2歳児親子・満3歳児ふたば組については、家庭と共に発達に応じた活動の保障ができ、子どもにも無理なく保護者と離れた園生活につながっている。子育て支援の充実につながっている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・子育て支援としての取組は、子どもの発達を促したり子育て相談の場となったりし、新規登録・リピートが増えている。
- ・保護者の子育て支援としての取組として、周知されつつあるが、より広く周知し、地域の子育て支援を担っていきたいと考えている。周知方法について検討を重ねたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・より子育ての支援につながるように、キンダーカウンセラーの活用を促がしたり、家庭教育講座の参加を呼びかけたりしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・キンダーカウンセラーの活用が広がるように、改めて保護者に周知する。また未就園児保護者にも周知し、多くの保護者が気軽に利用できるようにする。利用された保護者への聞き取りをする。
- ・ほっこり子育て広場については、引き続きアンケートにて感想や気づきを聞き取りをする
- ・未就園児クラスの取組については、直接保護者に聞き取りをする

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・2歳児クラスや満3歳預かり保育の実施は、未就園児を育てる家庭にとって大きな支援であると思われる。周知する場を広げ、より多くの地域に周知できるように取り組んでほしい。運営協議会としても、地域内外の会合で周知していきたい。

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンダーカウンセラーの活用については、前年度よりも利用される人数や回数が増え、保護者の安心感やそれぞれの子どもに寄り添う関わりを知ることができたとの声が聞かれた。子育て支援の取組として成果があったと考えられる。 ・ほっこり子育て広場について、毎回のアンケート結果からは参加者の話を聞き合い、思いを出し合い、悩みを共有できたことで気持ちが軽くなったなどの意見があった。子どもの年齢が異なる保護者同士が話し合える場であることも有意義だった様子である。 ・未就園児クラスの取組については、リピーターが多く、参加者数も多くなってきている。担当教員や保護者同士で話すことで、悩みを共有したり子育ての楽しさを感じたりされている様子が伺える。 <p>○アンケート項目</p> <p>『預かり保育は子育て支援として役立っているか』 （保護者、教職員共に100%）</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>* 子育て支援の全ての取組において、地域の子育て支援センターとして、参加されている保護者の満足度も高く役割を十分に果たしている。</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンダーカウンセラーの活用、ほっこり子育て広場の参加についても、子育ての支援としての役割を果たしている。キンダーカウンセラーの活用については、保護者の安心感に大きくつながったという意見が多い。 ・未就園児クラスはリピーターが多く、参加者同士や担当教員との関わりを通して、子育ての楽しさを再認識する機会となっている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を必要とする家庭への情報発信や参加につながる働きかけについては今後も継続して取り組む必要がある。未就園児クラスについては、体制や環境整備が今後の課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を必要とする家庭への情報発信の強化 ・未就園児クラスの体制・環境の見直し ・各取組との連携強化と学びの共有
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの取組の登録者数やリピーターの増加は、地域の子育て支援センターとしての幼稚園の役割を果たしていると捉えている。利用しやすい取組となるよう、今後も検討を重ね、幼稚園教育の理解につなげてほしい。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を学区諸団体に運営協議会（きらきらキッズ）や行事予定などで発信する。 ・運営協議会を中心とし、子どもの活動を持続可能で多様なものにする。（こいのぼりポールたて・園畑づくり・田んぼ遊び・年間を通したお米づくり・花売りやさん・伏見祭・十石舟乗船・昔遊びなど）その中で、地域の方と子どもたちがつながり、親しみを感じると共に、地域の伝統文化に触れ地域に愛着をもつことができるように年間計画に位置付ける。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち

○アンケート項目

『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』

中間評価

各種指標結果

- ・取組の発信は、毎月行っている。また地域の各種団体の会議にも積極的に参加し、幼稚園の子どもたちの様子や育ちについて発信をし、理解につながっている。
- ・運営協議会を中心とした保育支援の取組を年間計画に位置付け、子どもたちの自然体験や地域の伝統に触れる体験の充実につながっている。

○アンケート項目

『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』

(保護者、教職員共に100%)

自己評価

分析(成果と課題)

- ・地域の方の継続的なご協力の下、年間計画に位置付けていることで、特に年長児は地域の方の名前を覚え、親しみを感じて関わる姿が見られる。
- ・地域の方との関わりの中での育ちを保護者にも発信し、地域に対して感謝の思いをもっている保護者が多い。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今年度は130周年という節目の年でもあり、子どもたちがより、地域や幼稚園を大切に思い、愛着をもてるように、地域の方から『昔の幼稚園』について直接話を聞く機会をもつなど、より地域の方と触れ合える取組を計画する。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- 学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容
- 運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち
- アンケート項目
- 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域の祭りやお米や野菜の栽培などを通して、地域と園児との直接の触れ合いを積極的に行えている。南浜幼稚園ならではの強みを生かした取組に今後も継続して協力したい。豊かな体験を通して子どもたちの育ちを支えていることをより多くの方に発信してほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した)各種指標結果

- 学区諸団体や地域への情報発信については、創立130周年事業に参加していただくことで、子どもの姿や幼稚園を直接見ていただく機会を得ることができた。より幼稚園に関心をもていただく機会となった。
- 運営協議会の協力による活動の取組状況については、創立130周年事業への関連事業として、『昔の幼稚園』について話をしていただく機会をもち、子どもたちの思い(地域の方や幼稚園に対する愛着)につながった。

○アンケート項目

『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』

(保護者、教職員共に100%)

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>*今年度は、通常の体験活動に加え、創立130周年事業の取組があり、より地域や地域の方と親しむ機会が多くなった。関わりから生まれる子どもたちの育ちも感じられ、重点目標は達成されたと思われる。</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会や地域の方に子どもの姿や幼稚園の教育活動を直接見ていただく機会が生まれ、幼稚園への関心が高まった。子どもたちも地域や幼稚園への愛着の育ちにつながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度得られた地域とのつながりを継承できるように、地域の方への情報発信を計画的に行っていく。またご協力による体験活動についても、継続していただけるよう働きかけたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報発信の工夫 ・地域の方の協力による体験活動の維持 ・130周年事業で育まれた学びを教育活動に生かす
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南浜幼稚園ならではの強みを生かした、自然体験や地域の伝統文化に触れる取組に今後も継続して協力したい。 ・創立130周年事業の取組を通じた触れ合い活動（昔の幼稚園の話聞く）が、子どもたちの地域や幼稚園を大切に思う気持ちにつながったことは大変喜ばしい。

（6）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が自らの健康や生活を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが自分の担当業務を理解し、企画、取組などを率先して進めようとする意識をもつ ・それぞれ担当の指示で、同時に様々な業務を進めていく体制をつく
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ○年休や特休などの取得率

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の業務担当の理解は進み、効率よく取り組めるように計画しようとしている。
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の意識をもち、教頭が率先して業務終了時刻の声かけを行っている。 ・業務の効率化を図り、各担当が中心に進めようとしているが、今年度は大幅な人事異動があった初年度ということで、共通理解に時間が必要となり、特に行事前は残業が発生している。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務担当が業務を進めやすいように、本園での勤務経験者が昨年資料を提示するなどする。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○教職員の勤務時間(残業時間)の推移</p> <p>○年休や特休などの取得率</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・様々な対応や子育て支援、就労支援など、抱える業務は多いと思うが、教職員の心身の健康を大事にしてほしい。効率よく業務を進められるように、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○教職員の勤務時間(残業時間)については、行事前は多くなる傾向が見られるが、常態化することはない。</p> <p>○年休や特休などの取得率については、勤務形態によっては取得が低い職種もあるが、全体として取得しやすい職場環境となっている。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>*長時間勤務が常態化する状況にはなく、年休・特休の取得率についても職種による差はあるものの、全体として取得しやすい職場環境が整っており、働きやすい職場となっている。</p> <p><成果></p> <p>・教職員全体として、働き方改革に向けた意識が高まり、互いに声を掛け合いながら業務を行うことができています。</p> <p><課題></p> <p>・行事前の業務が偏らないように、担当者を中心に計画的に業務を進めていくようにする。</p> <p>・ICTを活用し、業務の効率化を図る。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・行事前の業務負担を減らす計画と体制づくり</p> <p>・ICT活用による業務効率化と時間確保の推進</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・多様な業務への対応に加え、子育て支援や就労支援など、担う役割は非常に幅広いと思う。その中でも、教職員の心身の健康を大切にもらいたい。業務がより効率的に進むよう、環境づくりなどについては運営協議会としても引き続き協力していきたい。</p>